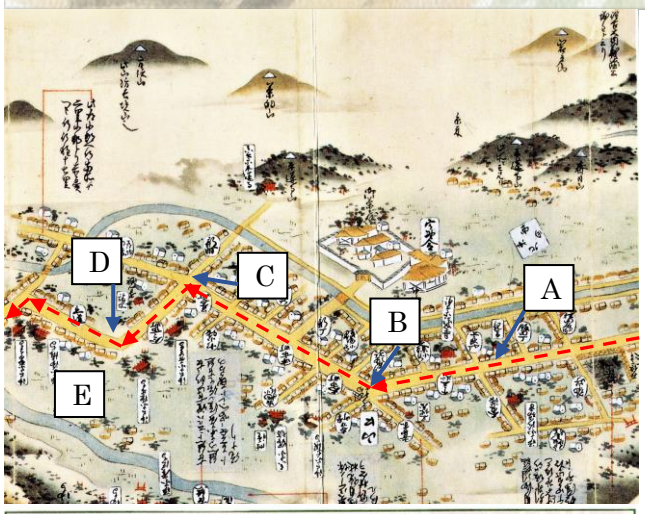
今日のイラスト 424　「 イラストでたどる萩往還㉔ 竪小路」　　古谷眞之助



イラストでたどる 萩往還 ㉔ 竪小路

見事に伸びた直線路が、山口市内を北から南に抜ける竪小路である。背後の山の一番低い部分が、越えて来た板堂峠。もともとこの小路は、大内時代に京を模して街作りがされた時の名残である。このように、この周辺には江戸・大内両時代の史跡が混在している。イラストは旧野村酒造で、現在はふるさと伝承センター・まなび館として利用されている。右手には大内時代の八坂神社、築山神社、そして龍福寺、十朋亭が建ち並び、正に歴史遺産の宝庫と呼んでよい場所である。

萩往還はさらに南進して現在の商店街と交わるが、そこからはアーケードを通り抜けて駅通りを山口地裁まで進む。さらに右に折れて鰐石橋へと進むコースを辿る。

文・イラスト＝古谷眞之助

このイラストシリーズも今回で24回目となり、2 年が経過した。大変不遜なことではあるが、葛飾北斎の富嶽三十六景に因んで 36 回シリーズとすることで始まった。あと 1 年、引き続きよろしくお付合いをお願いしたい。実際の富嶽三十六景シリーズは好評で、10 作が追加されて四十六景なのだそうだ。できればそれにあやかりたい気持ちがないわけではないが、すでに残り 12 のイラストを描く場所は決めてある。そして、このイラストシリーズでは、終点まで行けばもうそれで終わるしかない。あちらこちらから見える富士山を追加で何枚も描くというような手段は取りようがないからである。せいぜい残りを楽しんでいくことにしよう。

小写真は、1700 年代後半に藩の絵図方・有馬喜惣太が描いた絵地図「行程記」の山口市内の部分である。赤の点線で示したのが萩往還で、このイラストはＡ地点から右側（ 北北西方向 ）を見ている。江戸期も道が真っすぐなのがこれでお分かりだろう。そして萩往還はＢ地点から商店街に入って、Ｃ地点の道場門前交差点に至るまでは石州街道と重なる。そして左折して駅通りを D 地点まで向かう。D 地点には現在、山口地方裁判所があるが、江戸時代、ここには藩の迎賓館、「山口客館」があった。そこを右折し、さらに左折して椹野川にかかる鰐石橋を渡って大内地区に入る。山口駅は E 地点辺りになるだろう。実はこの絵図「行程記」の原本は山口県文書館に保管されている。一度だけ現物を見たが、とても 250 年以上経過したとは思えないほど奇麗なものである。（ 2021.3.24 記 ）